

2021年版 中小企業白書・小規模企業白書の概要

「2021年版中小企業白書・小規模企業白書」が4月23日に閣議決定され、公表されました。

今回の白書では、新型コロナウイルス感染症が中小企業・小規模事業者に与えた影響や、この危機を乗り越えるための重要な取組みとして、事業環境の変化を踏まえた事業の見直し、デジタル化、事業承継・M&Aに関する取組み等について、豊富な事例を交えながら調査・分析が行われました。

※本稿では、「2021年版中小企業白書・小規模企業白書」のポイントと様々な取組みを行っている中小企業・小規模事業者の事例(一部抜粋)を紹介します。
詳細は、経済産業省のホームページ(右記QRコード)をご覧ください。



2021年版中小企業白書・小規模企業白書のポイント

総 論

- ・感染症流行により、多くの中小企業が引き続き厳しい状況にある。
- ・事業環境の変化を転機と捉え、顧客のニーズや自社の強みに着目し、事業を見直すことも重要。

危機を乗り越える力

- ・財務状況を把握し、事業環境の変化に合わせた経営戦略を立てていくことが必要。
- ・デジタル化推進に向けては、デジタル化に積極的な組織文化の醸成や業務プロセスの見直しなどの組織改革を、経営者が関与し、全社的に推進していくことが重要。
- ・事業承継後に新たな取組みにチャレンジする企業が多く、事業承継は企業の成長・発展のためにも重要。事業承継策の1つであるM&Aはイメージが改善し件数も増加。

消費者の意識変化と小規模事業者の底力

- ・感染症流行による消費者の意識・行動の変化に着目し、新たな需要を獲得する小規模事業者も存在。
- ・地域とのつながりやSDGsへの取組みは小規模事業者の持続的発展に貢献。
- ・感染症流行下の支援を通じて、商工会・商工会議所への期待は高まっている。

新型コロナウイルス感染症が流行する中でも 様々な取り組みを行う中小企業・小規模事業者の事例

移住や起業

【事例10】Licca（群馬県みなかみ町）

香料製造業（従業員0名、個人事業者）

地域の特性に合った環境配慮型事業を移住して立ち上げた事業者

➤ 従来山林に放置されてきた間伐材の枝葉を利用したアロマオイル関連製品の製造は、山林整備や地域の活性化にも貢献できると考え、創業を決断。創業の地には、以前訪れた際に、人と森が共生する町という印象を抱いた群馬県のみなかみ町を選び、移住した。町役場の担当者から移住や起業支援事業などについて丁寧な情報を得ることができ、円滑な移住と創業を実現した。

➤ みなかみ町の温泉街では、宿泊客へのおもてなしに「地元産精油を使いオリジナルの香りをブレンドしてほしい。」という依頼が旅館から寄せられ、対応した。こうした「香りのコンサルタント」は、アロマオイル販売と並ぶ収益の柱となった。



アロマオイルを精製する
蒸留釜



香りを楽しむアロマボット

オンラインツールの活用

【事例17】株式会社クローネ（神奈川県鎌倉市）

家具小売・卸売業（従業員3名、資本金300万円）

感染症流行による来店客数減への対策に、SNSを活用して顧客との接点を増やした企業

➤ 感染症の流行により、2020年4月には来店客数は前年比で4割減、売上げも激減した。自社ファンとの接点を増やすため、SNSによる発信を強化。顧客との双方向のコミュニケーションを重視し、Instagramのライブ機能を使ったライブ配信を実施。商品の紹介や、視聴者と一緒に新商品の企画なども行った。



インスタライブの様子

➤ 2020年3～9月の売上げは前年比60～80%程度に落ち込んでいたが、動画のライブ配信が軌道に乗った2020年10月以降は前年を上回る水準で推移し、2021年3月期の売上高は、自社ECサイトでの販売が売上げの落ち込みをカバーし、前年と同程度を確保する見込みである。



クローネ一号店